

～～アンケート結果のまとめ～～

<介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>

調査項目	必要な視点・施策
<p>家族や生活状況</p>	<p>○独居、夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)が多い。 ○主介護者は子、配偶者が多い。 ○介護・介助が必要になった主原因は骨折・転倒、関節の病気、脳卒中が多い。</p> <p>【施策】 *独居や高齢者夫婦2人暮らしへの支援 *骨折・転倒。脳卒中の予防</p>
<p>身体を動かすこと</p>	<p>○要支援になると、下肢筋力が低下し9割が転倒に対する不安があり、外出機会が減る。 ○外出を控えている理由は、足腰の理由が最多。交通手段がない、外での楽しみがない、トイレの心配も多い。 ○移動は自動車(乗せてもらう・自分で運転)、徒歩が多い。</p> <p>【施策】 *下肢筋力の維持(若い頃からの運動習慣、フレイル予防) *楽しみに出かけていける場(歩いて行ける通いの場) *車の運転ができなくなった後の交通手段</p>
<p>食べること</p>	<p>○要支援になると、嚙む力、嚥下力が低下し、自歯20本ある人が減る。 ○8割以上が毎日入歯の手入れをしている。 ○毎日誰かと食事をしない人が4～5割いる。</p> <p>【施策】 *口腔機能の維持(嚥下力、自歯の維持) *食事を一緒にできる場(孤食への対応)</p>
<p>毎日の生活</p>	<p>○要支援になると、公共交通機関を使った外出、買物、調理、支払い、預貯金の出し入れ、書類を書くことができない。また、友人の家に行ったり相談に乗ること、生きがいがない人が多い(下肢筋力低下、外出制限、認知力低下が影響するものが多い)。 ○物忘れが多いと感じるのは4割以上いる。 ○生きがいがない人が3～5割いる。</p> <p>【施策】 *下肢筋力、外出、認知能力の維持 *生きがい対策(活躍の場、役割)</p>
<p>地域での活動</p>	<p>○月1回以上グループ活動に参加しているのは、要支援者では介護予防のための通いの場、趣味関係が多く、一般は収入のある仕事、町内会・自治体、趣味・スポーツ関係が多い。 ○月1回以上老人クラブに参加する人は減っている。 ○住民主体の地域活動に参加意欲がある人は、一般で5割いる。</p> <p>【施策】 *住民主体の地区活動(参加意欲がある市民の存在。収入、スポーツ、趣味につながる活動であれば参加しやすい)</p>

調査項目	必要な視点・施策
助け合い	<p>○心配事相談は、要支援者は子、一般は配偶者、友人が多い。 ○家族、友人・知人以外の相談相手はいない人が一定数いる、特に一般が多い。 ○週1回以上友人・知人と会う人が3～4割いる一方、1ヶ月間に全く会わない人が1～2割いる。 ○よく会う友人・知人は近所が多い。</p> <p>【施策】 *近所における孤独や閉じこもりの防止(声かけや見守り)</p>
健康	<p>○最近1ヶ月で気持が沈む人3～4割、心から楽しめない人が2～3割いる。 ○治療中・後遺症のある病気は、高血圧、筋骨格系の病気、目の病気、心臓病が多い。</p> <p>【施策】 *外出支援(楽しく参加できる通いの場) *地域活動への参加や近所での声かけ・助け合い活動 *若い頃からの生活習慣病の予防と運動習慣</p>
認知症	<p>○認知症の相談窓口を知らない人が6～7割いる。</p> <p>【施策】 *認知症相談窓口の周知(市報、医療機関、スーパーなど)</p>

<在宅介護実態調査>

項目	必要な視点・施策
A票 認定調査員が 記載	<p>○ほぼ毎日介護している人が7割。 ○介護内容は外出の付き添い・送迎、服薬、認知症への対応が多い。 ○主介護者で介護を理由に仕事を辞めた人が6%いる。 ○主介護者は子50%、子の配偶者25%。女性72%。60歳以上66%。 ○移送サービス、配食、見守り・声掛けを求める人が多い。 ○8割が介護保険サービスを利用している。未利用の理由は、本人が希望しない、家族が介護するので不必要が多い。</p> <p>【施策】 *移送サービス、配食、見守り・声掛け、通いの場 *介護者負担への気付き(介護者が必要と思っても本人がサービス利用を希望しない場合や、家族介護が当然と思っている風潮などを考慮)</p>
B票 主介護者又は 本人が記載	<p>○6割が働きながら介護している、6割が何らかの調整をしながら介護している、6割が問題はあるが今後も何とか続けていける。 ○仕事と介護両立のため、労働時間の柔軟な選択、介護休業・休暇制度の充実、制度を利用しやすい職場づくりを求める人が多い。 ○生活継続を不安に感じる介護は、認知症への対応、夜間の排泄。</p> <p>【施策】 *認知症の予防と、認知症の介護を支えるサービスの整備 *認知症や夜間排泄を担っている介護者負担への早期の気付きと対応 *労働部門と連携した、仕事と介護が両立しやすい職場環境・体制づくりへの働きかけ</p>

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

質問項目		回答結果		必要な視点・施策
		要支援者	一般	
家族や生活状況	家族構成	同居が31%で最も多く、次いで子との2世帯が29%。 前回よりも夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)が微増。	子との2世帯が33%で最も多く、次いで夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)が30%。 前回よりも子との2世帯が微増。	独居、夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)が多い。 主介護者は子、配偶者が多い。 介護・介助が必要になった主原因は骨折・転倒、関節の病氣、脳卒中が多い。
	介護・介助の必要性	何らかの介護・介助を受けている人が最も多く58%。前回より7%減。	介護・介助が必要ない人が最も多く85%。前回より5%増。	
	介護・介助が必要になった主な原因	最も多いのは骨折・転倒、次いで高齢による衰弱、脳卒中、関節の病氣。 前回より脳卒中が増えている。	最も多いのは関節の病氣、次いで高齢による衰弱、脳卒中、心臓病が同数。 前回より高齢による衰弱が減っている。	
	主な介護者	介護サービスのヘルパーが31%で最も多く、次いで息子、娘。 前回よりヘルパーが微増、子の配偶者が微減。	最も多いのは配偶者が42%、次いで娘。 前回より配偶者が増え、息子・娘が減っている。	
	経済状況	ふつうが71%で最も多く、次いでやや苦しい17%。	ふつうが63%で最も多く、次いでやや苦しい21%。前回とあまり変化なし。	
	住居	持家一戸建てが90%。	持家一戸建てが95%。	
	身体を動かすこと	階段を昇ること	できない人が80%で最も多い。前回より減。	できるしている人が59%で最も多い。前回より増えている。
椅子から立ち上がること		できない人が70%で最も多い。前回より減。	できるしている人が75%で最も多い。前回より微増。	
15分続けて歩くこと		できない人が70%で最も多い。前回より増。	できるしている人が67%で最も多い。前回とほぼ同じ。	
過去1年間に転んだ経験		ない人が49%で最も多い。前回より減。	ない人が64%で最も多い。前回より微減。	
転倒に対する不安		とても不安、やや不安で91%。前回より微増。	とても不安、やや不安で50%。前回より微増。	
週に1回以上の外出		週2~4回が52%で最も多い。週1回以下が38%。前回とほぼ同じ。	週5回以上が45%で最も多い。週1回以下が14%で前回より減。	
前年と比べた外出機会		とても減っている、減っているで59%。前回より微増。	減っている、減っていないで29%。前回より微増。	
外出を控えているか。		はいが61%。前回より増。	はいが26%。前回とほぼ同じ。	
外出を控えている理由		最も多いのは足腰の痛み、次いで交通手段がない、外での楽しみがない。 前回よりトイレの心配、耳の障害が減っている。	最も多いのは足腰の痛み、次いで外での楽しみがない、病氣、トイレの心配、耳の生髪が同数。	
外出する際の移動手段		最も多いのは自動車(人に乗せてもらう)、次いで徒歩、自動車(自分で運転)、歩行者・シルバーカー。	最も多いのは自動車(自分で運転)、徒歩、自転車、自動車(人に乗せてもらう)。	
食べること	固いものが食べにくい	はいが42%。前回より減。	はいが36%。前回と同じ。	○要支援になると、噛む力、嚥下力が低下し、自歯20本ある人が減る。 ○8割以上が毎日入歯の手入れをしている。 ○毎日誰かと食事をしない人が4~5割いる。 【施策】 *口腔機能の維持(嚥下力、自歯の維持) *食事を一緒にできる場(孤食への対応)
	お茶や汁物でむせる	はいが40%。前回より微減。	はいが28%。前回より微増。	
	口の渇きが気になる	はいが40%。前回より減。	はいが28%。前回と同じ。	
	毎日歯磨きする	はいが90%。前回と同じ。	はいが89%。前回より微増。	
	歯の数と入歯の利用状況	20本以上ある人が24%。前回と同じ。	20本以上ある人が41%。前回と同じ。	
	噛み合わせ	良いが65%。前回より微減。	良いが73%。前回より微減。	
	毎日の入歯の手入れ	はいが86%。前回より微減。	良いが85%。前回と同じ。	
	6ヶ月で2~3kgの体重減少	はいが20%。前回と同じ。	はいが11%。前回より微減。	
毎日の生活	誰かと食事をする機会	毎日あるか49%。前回と同じ。	毎日あるか58%。前回と同じ。	○要支援になると、公共交通機関を使った外出、買物、調理、支払い、預貯金の出し入れ、書類を書くことができない、友人の家に行ったり相談に乗ること、生きがいが少ない人が多い(下肢筋力低下、外出制限、認知力低下が影響するものが多い)。 ○物忘れが多いと感じるのは、どちらも4割以上いる。 ○生きがいが少ない人が3~5割いる。 【施策】 *下肢筋力、外出、認知能力の維持 *生きがい対策(活躍の場、役割)
	物忘れが多いと感じるか	はいが45%。前回より微減。	はいが44%。前回と同じ。	
	電話番号を調べてかけるか	いいえが23%。前回より微増。	いいえが10%。前回と同じ。	
	今日が何月何日かわからない	はいが34%。前回より微減。	はいが20%。前回より微減。	
	バスや電車で一人で外出	できないが43%。前回より減。	できないが7%。前回と同じ。	
	自分で買物	できないが36%。前回と同じ。	できないが2%。前回より微減。	
	自分で食事の用意	できないが32%。前回と同じ。	できないが8%。前回と同じ。	
	自分で請求書の支払い	できないが23%。前回と同じ。	できないが2%。前回と同じ。	
	自分で預貯金の出し入れ	できないが21%。前回と同じ。	できないが2%。前回と同じ。	
	年金などの書類を書く	できないが50%。前回より微増。	できないが12%。前回と同じ。	
	新聞を読んでいるか	いいえが13%。前回より微減。	いいえが7%。前回より微減。	
	本や雑誌を読んでいるか	いいえが38%	いいえが29%	
	健康の記事や番組への関心	いいえが13%。前回と同じ。	いいえが8%。前回と同じ。	
	友人の家を訪ねる	いいえが65%。前回と同じ。	いいえが40%。前回より微増。	
	家族や友人の相談に乗る	いいえが47%。前回より微減。	いいえが22%。前回より微減。	
	病人を見舞う	いいえが41%	いいえが9%	
	若い人に自分から話しかける	いいえが36%。前回より微減。	いいえが17%。前回と同じ。	
	趣味の有無	ないが38%。前回と同じ。	いいえが26%。前回より微増。	
いきがいの有無	ないが47%。前回と同じ。	いいえが27%。前回と同じ。		
地域での活動	ボランティアグループの参加頻度	月1回以上参加者1%。前回と同じ。	月1回以上参加者6%。前回と同じ。	○月1回以上グループ活動に参加しているのは、要支援者では介護予防のための通いの場、趣味関係が多く、一般は収入のある仕事、町内会・自治体、趣味・スポーツ関係が多い。 ○月1回以上老人クラブに参加する人は減っている。 ○住民主体の地域活動への参加意欲は一般で5割いる。 【施策】 *住民主体の地区活動(参加意欲がある市民3割の存在。収入、スポーツ、趣味につながると参加しやすいか?)
	スポーツ関係グループの参加頻度	月1回以上参加者2%。前回と同じ。	月1回以上参加者14%。前回と同じ。	
	趣味関係グループの参加頻度	月1回以上参加者7%。前回と同じ。	月1回以上参加者15%。前回と同じ。	
	学習・教養サークルの参加頻度	月1回以上参加者1%。前回と同じ。	月1回以上参加者5%。前回と同じ。	
	介護予防のための通いの場への参加頻度	月1回以上参加者22%	月1回以上参加者8%	
	老人クラブへの参加頻度	月1回以上参加者5%。前回より微減。	月1回以上参加者5%。前回より減。	
	町内会・自治会への参加頻度	月1回以上参加者4%。前回より微減。	月1回以上参加者31%。前回より減。	
	収入のある仕事への参加頻度	月1回以上参加者2%。前回と同じ。	月1回以上参加者16%。前回より増。	
	住民主体活動への参加意欲	参加したい・しても良い28%。前回より減。	参加したい・しても良い54%。前回より減。	
	住民主体活動の企画・運営への参加意欲	参加したい・しても良い10%。前回と同じ。	参加したい・しても良い34%。前回より減。	
助け合い	心配・愚痴を聞いてくれる人	最も多いのは別居の子、次いで同居の子、兄弟姉妹・親戚・親・孫(独居が多い) 前回より兄弟姉妹が減、子が増	最も多いのは配偶者、次いで友人、兄弟姉妹・親戚・親・孫、別居の子(夫婦2人のみが多い) 前回より兄弟姉妹が減、友人が増	○心配事相談は、要支援者は子、一般は配偶者、友人が多い。 ○家族、友人・知人以外の相談相手はいない人が一定数いる、特に一般で多い。 ○週1回以上友人・知人と会う人が3~4割いる。1ヶ月間に全く合わない人が1~2割いる。 ○よく合う友人・知人は近所が多い。 【施策】 *近所における孤独や閉じこもりの防止(声かけや見守り)
	心配・愚痴を聞いてあげる人	最も多いのは「そのような人はいない」、次いで兄弟姉妹・親戚・親・孫、別居の子 前回より兄弟姉妹が減	最も多いのは配偶者、次いで兄弟姉妹・親戚・親・孫、同居の子、友人 前回より兄弟姉妹が減	
	看病してくれる人	最も多いのは同居の子、次いで別居の子、配偶者	最も多いのは配偶者、次いで同居の子、別居の子	
	看病してあげる人	最も多いのは「そのような人はいない」、配偶者、同居の子。前回と同じ	最も多いのは配偶者、次いで兄弟姉妹・親戚・親・孫、同居の子。前回と同じ	
	家族・友人・知人以外で相談する相手	最も多いのはケアマネ、次いで医師・歯科医師・看護師、「そのような人はいない」。前回と同じ	最も多いのは「そのような人はいない」、次いで医師・歯科医師・看護師、地域包括支援センター 前回より医師・歯科医師・看護師、社協・民生委員が減	
	友人・知人と会う頻度	週1回以上ある34%。前回より減	週1回以上ある39%。前回より微減	
	1ヶ月間に会った友人・知人の数	少ない23%。前回より増	少ない9%。前回より微増	
よく会う友人・知人の関係性	最も多いのは近所、次いでいない、趣味・関心が同じ友人。前回よりいないが増	最も多いのは近所、次いで仕事の同僚・元同僚、趣味・関心が同じ友人。前回と同じ		

質問項目		回答結果		必要な視点・施策
		要支援者	一般	
健康	健康状態	とても良い・まあ良い56%、前回より微減	とても良い・まあ良い75%、前回と同じ	○最近1ヶ月で気持ちが沈む人3~4割、心から楽しめない人加齢2~3割いる。 ○治療中・後遺症のある病気は、高血圧、筋骨格系の病気、目の病気、心臓病が多い。 【施策】 *外出支援(通いの場)、地域活動や近所での助け合い活動 *若い頃からの生活習慣病の予防と運動習慣
	幸福感	最も多いのが5点、次いで8点、10点。前回と同じ	最も多いのが10点、次いで8点、5点。前回と同じ	
	1ヶ月間の気持ちが沈む有無	ある43%、前回より微減。	ある30%、前回と同じ	
	1ヶ月間の楽しめない感じの有無	ある30%、前回より増	ある18%、前回と同じ	
	飲酒	毎日・時々飲む14%、前回と同じ	毎日・時々飲む38%、前回と同じ	
	喫煙	毎日・時々吸う5%、前回と同じ	毎日・時々吸う12%、前回と同じ	
	治療中・後遺症のある病気	最も多いのは高血圧、次いで筋骨格系の病気、目の病気。 前回は高血圧、筋骨格系の病気、心臓病。	最も多いのは高血圧、次いで目の病気、心臓病。 前回は高血圧、糖尿病、筋骨格系の病気。	
認知症	症状の有無や家族に認知症がいる有無	はい13%	はい12%	【施策】 *認知症相談窓口の周知(市報、医療機関、スーパーなど)
	認知症の相談窓口を知っているか	はい42%	はい33%	

在宅介護実態調査結果

質問項目		回答結果	必要な視点・施策
A票 認定調査員が記載	聞き取った相手	最も多いのは家族・親族43%、次いでケアマネ33%。前回と同じ。	<p>○ほぼ毎日介護している人が73%。介護内容は外出の付き添い・送迎、服薬、認知症への対応が多い。</p> <p>○主介護者で介護を理由に仕事を辞めた人が6%いる。</p> <p>○主介護者は子50%、子の配偶者25%、女性72%、60歳以上66%。</p> <p>○移送サービス、配食、見守り・声掛けを求める人が多い。</p> <p>○8割が介護保険サービスを利用しているが、未利用の理由は、本人が希望しない、家族が介護するので不必要が多い。</p> <p>【施策】 *移送サービス、配食、見守り・声掛け、通いの場 *介護者負担への気付き(介護者が必要と思っても本人がサービス利用を希望しない場合や、家族介護が当然と思っている風潮など)</p>
	世帯類型	最も多いのはその他70%、次いで夫婦のみ13%、単身世帯17%。前回と同じ。	
	介護は週にどれくらいか	最も多いのはほぼ毎日73%、前回より微増。	
	主介護者	最も多いのは子50%、次いで子の配偶者25% 前回より配偶者が減	
	主介護者の性別	女性72%、男性23%。前回より女性が増。	
	主介護者の年齢	最も多いのは60代39%、次いで50代、70代。60歳以上で66%。 前回より50代、70代が増、80歳以上で63%	
	主介護者が行う介護・身体介護	最も多いのは外出の付き添い・送迎、次いで服薬、認知症への対応 前回も同じ	
	主介護者が行う介護・生活援助	調理、その他の家事、金銭管理がほぼ同数。前回も同じ	
	介護を理由として過去1年間に仕事を辞めた人がいるか	主介護者が辞めた6%、転職2%。前回は辞めた3%、転職1%。	
	現在利用している介護保険サービス以外の支援	最も多いのは利用していない、次いで移送サービス、サロンなど通いの場。 前回より配食が減、サロンが増。	
	今後の在宅生活に必要なと感じるサービス	最も多いのは特になし、次いで移送サービス、配食、見守り・声掛け 前回より外出同行が減、配食が増	
	現時点での施設への入所検討	検討している12%、申請済み10%。前回より減。	
	本人の傷病	最も多いのが認知症、次いで心疾患、筋骨格系疾患。 前回より脳血管疾患が減。	
	訪問診療の利用	利用している12%、前回と同じ。	
介護保険サービスの利用	利用している79%、前回より微減。		
介護保険サービス未利用の理由	本人が希望しない、家族が介護するので不必要、住改・福祉用具貸与・購入のみ利用。前回より利用するほどの状態でないが減。		
B票 主介護者又は本人が記載	主介護者の勤務形態	働いていない39%、フルタイム、パートタイムが27%ずつ。 前回よりフルタイム、働いていないが微減、パートタイム微増。	<p>○6割が働きながら介護している、6割が何らかの調整をしながら介護している、6割が問題はあるが今後も何とか続けていける。</p> <p>○仕事と介護両立のため、労働時間の柔軟な選択、介護休業・休暇制度の充実、制度を利用しやすい職場づくりを求める人が多い。</p> <p>○生活継続を不安に感じる介護は、認知症への対応、夜間の排泄。</p> <p>【施策】 *認知症の予防と、認知症の介護を支えるサービスの整備 *認知症や夜間排泄を担っている介護負担への気付き *労働環境的なもの？介護のための休暇が取りやすい職場環境への働きかけ？</p>
	主介護者が介護するにあたって働き方の調整をしているか	何らかの調整をしている人が56%。前回63%より減。	
	主介護者は勤務先からどんな支援があれば、仕事と介護の両立に効果があるか	最も多いのが労働時間の柔軟な選択、次いで介護休業・介護休暇の制度充実、制度を利用しやすい職場づくり。 前回は介護休業・介護休暇の制度充実、制度を利用しやすい職場づくり、労働時間の柔軟な選択	
	主介護者は、今後も働きながら介護を続けていけるか	最も多いのは問題はあるが何とか続けている60%、次いで問題なく続けている33%。前回より問題なく続けている増、継続が難しいは減。	
	現在の生活を継続するにあたり、主介護者が不安に感じる介護・身体介護	認知症への対応、夜間の排泄が最も多く、次いで日中の排泄、外出時の付き添い・送迎。前回と同じ。	
	現在の生活を継続するにあたり、主介護者が不安に感じる介護・生活援助	調理、その他の家事がほぼ同数で多い。 前回は金銭管理もほぼ同数だった。	

